

完全学校週 5 日制の実施に伴う家庭・学校・
地域の対応について

(答 申)

平成 14 年 3 月 15 日

昭島市社会教育委員会議

答 申 内 容

ま え が き

1. 完全学校週五日制に対応する学校教育
 - ①学校は休日を家庭や地域社会に子どもを帰す
 - ②地域・諸団体・その他いろいろな会などへ積極的に参加を促す
 - ③学校部活動の支援
 - ④総合的な学習の時間の社会的な活用
2. 完全学校週五日制に対応する家庭教育
 - ①家庭の意識改革
 - ②家族・地域の人々とのふれあいの場の確保
3. 完全学校週五日制に対応する地域の教育
 - ①子どもを育てる地域づくり
 - ②子どもを育てる地域の役割
 - ③地域づくりと大人の責任
 - ④挨拶通りを設定
 - ⑤指導者の発掘と養成
 - ⑥子ども会活動の活性化
4. 完全学校週五日制に対応する学社融合
 - ①学社融合
5. 行政の役割
 - ①子どもたちの活動
 - ②青少年の居場所づくり

あ と が き

答申にあたっては社会教育委員会では、次のことを観点に話し合いを進めた。
「子どもの生活と活動」・「子どもの休日の過ごし方」・「子どもへの支援」について

ま え が き

児童・生徒の健全育成については、従来から学校・家庭・地域において、それぞれの立場から関係者が熱心に努力してきたところです。

『学校』は意図的、計画的な教育活動を通して、児童・生徒の個性や能力を伸長させる場であり、また集団生活を通して、集団の規律、全体と個の関係を理解させ、人格の望ましい発達を図る『場』でもあります。

『家庭』は、親子の関係で結ばれた教育の『場』であり、親が自らの実践を通して、子どもに強い感化を及ぼす『場』でもあります。また、基本的なしつけや、安定した情緒を育成するという重要な教育機能を持っています。

『地域社会』は、児童・生徒の発達にとって重要な『場』であります。自然や文化、地域スポーツ等を通しての人間関係の深化、人々の温かい目、地域環境の整備や浄化などは、児童の健全育成、非行防止のためには欠くことの出来ない環境であり『場』でもあります。

昭島市社会教育委員会では、平成十二年十二月に教育長から【完全学校週五日制の実施に伴う家庭・学校・地域の対応について】の諮問を受けました。

完全学校週五日制は、子どもや社会全体に「ゆとり」を確保し、子どもたちに自然体験やいろいろな社会体験、あるいはボランティア活動の参加等を通じて「考える力」「心の豊かさ」「生きる力」を育て、バランスのとれたよき社会人に成長を目指すものであるという基本認識の上に立って、ここに諮問に対して答申を提出します。

1. 完全学校週五日制に対応する学校教育

完全学校週五日制に対しての学校への働きかけは、子どもの直接体験をどうさせるかを提言する。

①学校は、休日を家庭や地域社会に子どもを帰す

学校は、当面部活動などの充実を図って休日を活用することも考えられるが、基本的には学校本来の機能である学習活動を担う立場から子どもたちを家庭や地域に返すことを前提とする。一方地域指導者主体の活動を促すとともに、教師も一地域人として、積極的に地域活動に参加することが望まれている。

また、学校完全週五日制の趣旨を、教師はしっかりと把握し、自己の意識改革をすると同時に、「あくまでも子どもの望ましい人間形成のための、週五日制である」という認識をしてほしい。

②地域・諸団体・その他いろいろな会などへの積極的な参加を促す。

地域活動や諸団体、その他いろいろな会などへの参加について、学校でも指導願いたい。また、子どもたちが、主体的にいろいろな活動に参加しやすいよう、教育委員会として次のことをすることが望まれる。

- (1) 指導者の発掘と講師依頼など
- (2) 活動場所の提供と確保
- (3) 子どもたちへの情報提供

③学校部活動などの支援

将来的には『地域総合型スポーツクラブ』等子供達にスポーツの場が提供されるようになるかもしれないが、今のところ部活動に対する子どもや親の期待は大きい。ところが少子化に伴う一校当たりの教員数の減少で、従来の部活動

が立ち行かなくなっている。そこで部活動については

- (1) 近隣学校間での合同部活動の実施
 - (2) 地域のスポーツ・文化活動の指導者を活用
 - (3) 地域のスポーツ・文化活動クラブとの連携
- 等の工夫を凝らして、部活動の充実を図ってほしい。

④総合的な学習の時間の社会教育的な活用を――学社融合

完全学校週五日制とは少し離れるが、学校として課題になっている総合的な学習の時間の活用方法がある。学校への手助けとして今後考えるべき問題として、次のことに考慮されたい。

- (1) 地域の人材バンク作り
- (2) 情報提供や紹介事業を
- (3) 市職員等の人材派遣（現在も行っているが、各学校への啓発・啓蒙を徹底させたい）

2. 完全学校週五日制に対する家庭教育

①家庭の意識改革をどうするか

家庭の教育力の低下も問題化しているが、家庭は子どもの人間形成の基礎を養う場として重要な役割を担っている。

しかし親の考えが十分ではないので、親に対しての啓蒙が必要である。子ども自身が主体的に自由に使える時間を保障したり、自ら活動が出来たりするように、親が配慮していくことが大切と思う。あくまでも子どもの立場を理解し、考えてあげる親であってほしい。

これらのことを、父母に十分に判らせるよう、行政として働きかけてほしい。

② 家庭・地域の人々とのふれあいの場の確保

家庭・地域の人々のふれあいをどう広げていくか考えたい。家庭を憩いの場として子どものゆとりを増やし、家庭団らんの機会をつくり、いろいろの話をし、子どもの居場所をつくる。

家族で旅行をしたり、親子でスポーツを行う。(幼少の頃から、意識的に父親も子育てに関わる。)

地域の人々とのコミュニケーションやボランティア活動に親子で参加する。

こうした家族のふれあいは、子どもたちに心のよりどころをもたせ、家族の絆を強めていくことにもなり、家族の意義や大切さを考え直すきっかけを与えてくれるのではないか。子どもは親の後ろ姿を見て、育つと言われている。親の姿勢や生き方を示すことにより、子どもは親に対して感服するものである。

子どもたちが地域などの活動に参加する際には、両親は、その世話役や指導者なども率先して行うことが望まれる。

今まで述べてきたように、家庭教育への行政の働きかけは、大変重要になってきている。現実を打破するための家庭への働きかけは、地域づくりにかかってくるかもしれません。単なる講座や講演などに頼るのではなく、地道な地域・家庭への取り組みを切望する。

社会的規範・道徳心・ルールを守ることを育てる家庭教育の在り方を強調したい。

3. 完全学校週五日制に対応する地域の教育

① 子どもを育てる地域づくり

・子どもの成長に必要なもの

現在、子どもたちの生活を見たとき、生活の時間、空間を広げる必要のある

ことは周知のとおりである。なんとかして地域や家庭の教育力をもう一度取り戻し、子供の自立に必要な教育環境を求めるべきである。

子どもにとって地域は、放課後の友達との遊びを中心とした生活空間であったはず。しかし、今は子どもの歓声を聞くことは少なくなった。家庭や地域に対して、家庭の教育力、地域の教育力の大切さを啓蒙すべき事業の展開を望む。

②子どもを育てる地域の役割

親以外に、子どもを温かく見守る多くの人たちの目が、子どもの成長に欠かすことのできないものと信じる地域社会をもう一度取り戻したい。

親同士が親密になることは、仲間関係を緊密にし、活動を活性化し、仲間集団の人間形成力を増大することはいうまでもない。

地域は、子どもが成長する『場』である。幼い日の仲間との遊びを中心とした、地域の人に見守られながら楽しく生活した体験は、地域への愛着を生み、郷里意識や郷土愛をも育むものである。

このように地域の持つ役割を、行政の立場からも啓蒙すべきである。ただ単に講演会等を開くだけではなくて、地域に根ざした活動を行ってほしい。

地道な話し合い活動を展開し、地域の人たちの中でリーダー 発掘・養成に力を注いでほしい。

③地域づくりと大人の責任

地域の連帯、人間関係を強化するには何ができるのか。何をしなければならないか。

(1) まず、親が手本を示す。

子どもにとって強い影響力を持っているのは親である。親が少年時代に各種

の団体に活躍していた人は、親になってもその団体のリーダーになっている例は多い。当然その子どもは親とともに社会参加をする。

世代間の継続性が生まれるので、まず親が手本を示すことである。また、大人が責任を持って正義感や論理観、思いやりの心を育み、人が生きていく上で、当然の心得を伝えていく取り込みが必要である。

(2) 家庭を開く。

家庭のみの狭い人間関係から子どもを解放し、親もほかの子どもたちに声かけができる存在になることが大切である。親も近隣に仲間を作り、相談できるようにすることが大切である。

④「挨拶通り」を設定する

各校区ごとに地域の中に「挨拶通り」を設定したい。

地域で [おはよう] [さようなら] [ありがとう] [ごめんなさい] の挨拶を自然に交わそう。そこからゆとりある心を育んでいける。

⑤指導者の発掘・養成

・子どもの活動を活発にさせる指導者の役割

かつての時代の自主的な仲間集団は衰退してしまった。特に、少年少女の団体やサークル離れが進んでいるのが現状である。

時間的・空間的・仲間などの問題や、極端に過度に失敗を恐れたり、傷つくことを恐れたりすることが、衰退させていることにもつながっている。

このような状態の中での指導者のあり方は難しい。子どもが求めていることを満足させながら、自分たちの望む方向に誘導していくことの出来る人が望まれる。

つまり、失敗したりつまずいたりすることを恐れないで、それを暖かく受け入れ、やり直しの機会を与え、次の課題にチャレンジしていくように仕向けられる指導者が必要である。いわゆる支援の出来る指導者である。

支援とは、何でも認めることではない。間違っことは指導し、行き詰まったら示唆や制限を加えられることである。

子どもがめざす方向に進んでいくことを、受け入れ・支援が出来るリーダーを養成したい。

いずれにしても、リーダーは地域の誰れでもが育てていくという考え方で、育成することが大切であり、その考え方を推進することである。

そのために行政としてはリーダーの発掘・育成・確保をすべきであり、各地域からは、優秀な人材の推薦を望みたい。

⑥子ども会活動の活発化

子ども会活動の重要性は、地域にとっても欠かせないものであり、活性化させることが不可欠である。

活動の場についても真剣に考えなければならない。PTAも学校だけの活動ではなく、地域の関係団体の協力・連携が必要である。

4. 完全学校週五日制に対する学社融合

①学社融合

学校では、総合的な学習の時間について、地域に学びの場を求めたり、地域の指導者の力を借りたりしながら学習することがこれからますます多くなる。それに伴い、連携・融合がますます必要になる。学社連携・融合のあり方を、今後どうしていくのか探りたい。

- ・企業に賛成をスポーツ指導、場の提供など企業の有能な指導力や場の提供など願いたい。

5. 行政の役割

各項でもふれているが、提案された事項の実施は市民が主体的に行うが、行政の積極的な指導・支援を要請するものである。

①子どもたちの活動

- ・情報提供の充実
- ・相談体制の充実

②青少年の居場所づくり

- ・施設の利用時間の見直し
- ・各種事業の充実

青少年フェスティバル、バンド、ダンス、イラスト、コミック

あ と が き

新しい世紀を向かえ、明るい未来を想像したくなるものであるが、今の子どもたちにとっての現状は決して良いものとはいえない。例えば受験戦争はまだまだ過熱化しているし、いじめや不登校の数も減少してはいない。家庭では少子化が進み、それに歯止めをかける働きを国をあげて考えなければならない問題となっています。

社会の高齢化が進み、子どもの身近にある地域も昔のような機能を果たしていません。社会全体に潤いがあり、人間が相互に補完し合えるような豊かな環境になっているとはいえません。

また、今の子どもたちの状態をみると、社会の中で当然はぐくまれるべき生きるために必要な、調和の取れた社会性が育っていません。これは、自然とふれ合う機会の減少や生活体験等の不足からくるものが多く、生きるための力が育っていないことが一因となっています。

今日のようなつながりが希薄なときこそ、社会性をはぐくむ教育が重要であり、それを意図して育てようとする活動を多くしてこそ、社会性が育ち、自ら考え、主体的に判断し、行動できる能力が身につけられるのであります。

このような現状の中で、これから子どもたちを育てていくには、学校として今まで以上に既存の知識や技術にとらわれない新しい感覚と考える、教育を行うことであります。

端的に言えば、今までにない感覚のものを想像するぐらいの主体的な授業の改善と工夫が必要となってきます。つまり、自分を主体とした生き方を考えさせる必要があります。

教育環境も子どもにとって真に必要なものに精選し、活動の内容も自らの力で考え選択させ、活動を通す中で生きて働く知恵や技術を学ばせることであります。

以上、社会教育委員会議として、1年半の話し合いを重ねて参りました。不十分な点もありますが、二十一世紀の担い手である、子どもたちの育成に役立つことを念じて、ここに答申いたします。

第 21 期 社 会 教 育 委 員

任 期 平成12年10月 1日～現在

議 長 吉 田 正 志

副議長 河 村 陽 男

委 員 清 水 正 孝

〃 室 賀 薫

〃 石 井 賀津子

〃 長 瀬 高 志

〃 柏 原 かつよ

〃 和 田 順 一

〃 森 樞

〃 宮 崎 美代子